

エコ等をうたった鍋、釜、フライパン等によるCO中毒の防止

事故の概要

【事例①】「エコ」をうたったフライパンで調理中、台所のガス・CO警報器が鳴動した

【事例②】

「高保温性」をうたった釜を用いて炊飯中、台所のガス・CO警報器が鳴動した



【写真】フライパン底面の波形フィン構造

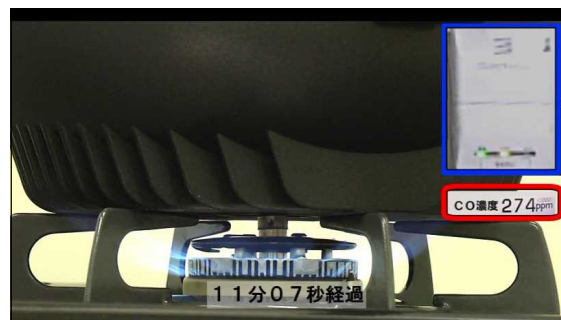
事故の原因

【事例①】

底面(加熱炎側)を突起状の波形フィン構造にしていたため、ガスの燃焼に必要な空気が十分に供給されず、不完全燃焼が発生したものです。

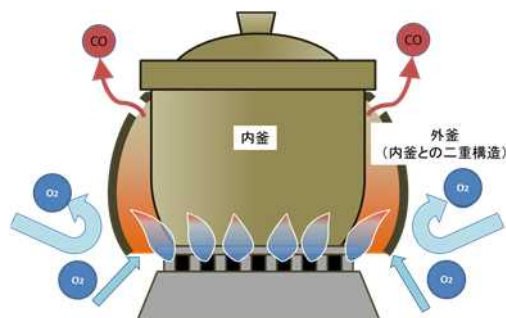
【事例②】

ガスこんろの熱を釜全体に行き渡らせるために、外釜と内釜の二重構造になっていたため、外釜と内釜の間に入り込んだ炎に十分な空気が供給されないことで、不完全燃焼が発生したものです。



【再現実験】

室内のCO濃度が上昇し、CO警報器が鳴動



【図】二重構造による空気不十分で不完全燃焼が起こる様子



事故防止のために

- ◆ ガス使用時には十分な換気を行い、COが室内に留まらないよう注意してください
- ◆ CO検知機能を持つガス警報器を設置して、鳴動した場合はガス事業者に連絡してください

